

テーマ：患者・看護師双方に優しい翼状針

■ 背景

- 安全機構付き翼状針とホルターが一体化した器具は、以下の利点がある。
 - ① 針刺時や採血用試験管を置換する際の痛みが少ない。
 - ② 針が短く深く刺さらないため、神経損傷などトラブルが起こりにくい。
 - ③ 針刺時にチューブ内に逆流する血液が確認できるため、採血のやり直しが起こりにくい。
 - ④ 採血管とはチューブで繋がっているため、採血管挿入時の振動による血管貫通リスクがない。
- 針外径のサイズが小さくなるほど痛みが減少する。一方で、内径も小さくなると、流入スピードは低下し針刺時間は長くなる。適切な流入スピードを確保しつつ、患者への負担を減らすアイデアが求められている。
- 針が短いため、皮下脂肪の厚い人では血管へ到達しにくいという課題もある。



<出典：看護root>

■ 現在の対応法

- 各メーカーより、肉薄タイプと称する商品が出ており、医療機関によってはそれらの商品を利用している。

機能アイデア例

- ・ 外径と内径の絶妙なバランスで患者さんの痛みが低減でき、かつ、従来品に比べ、流量・スピードが適切に確保のできる製品



■ 使用頻度や市場性に関する情報

- 様々な太さ(16G~27G)の商品が1つ6~10円程度で販売されている。
- 健康な人を対象とする定期健康診断、検査のための採血回数は年間1千万回以上と考えられる。翼状針の優位性を考慮すると直針から翼状針への切り替えが進み、上記課題を改善した翼状針には大きな市場機会があるとされる。
- 用途は静脈採血が大部分だが、静注・持続点滴含む末梢血管確保にも翼状針は用いられている。

■ 看護部ホームページ

<http://sumsnurse.es.shiga-med.ac.jp/>